

第2次周南市まちづくり総合計画（素案）に対する意見の要旨と市の考え方

【基本構想】

項目	番号	意見要旨	市の考え方
周南市の未来像	1	『2. 将来の都市像』の中で、「地域資源を生かした、活力あふれる産業のまち」とありますが、地域資源が何なのかを、どこかに記載しておくべきではないでしょうか。その際、これからのまちづくりの方向の全体を推進していく上で、最も大事な地域資源は“働く場”であり、周南コンビナートが重要な地域資源であると思います。	「用語説明」に、本市における地域資源の定義を追記しました。

【基本計画】

「将来の都市像」の実現に向けた主要プロジェクト	2	主要プロジェクトの記載の順番について、1. 産業活力、2. 賑わい、3. 少子化、4. 安心安全、5. 自立、6. 中山間、7. 行財政改革、ではないかと思えます。あるいは、記載順は特に重点度を表すものではなく、7つのプロジェクト全体が「将来の都市像」を実現するための重点という意味であれば、基本構想における「将来の都市像」と7つのプロジェクトとの繋がりが分かるような記述が必要だと思います。	主要プロジェクトは、「人口減少問題への対応」を重点課題として、自然増減に関わる「少子化対策」と、社会増減に関わる「魅力あるまちづくり」を柱として構成していることから、記載順は、現状の記載とします。都市像とプロジェクトのつながりについては、冒頭の文章の追記とともに、概念図で示します。
社会で育む少子化対策プロジェクト	3	「移住者の視点」「企業誘致の視点」の検討を希望する。	社会増減に関わる「魅力あるまちづくり」として、別プロジェクトの主な取組みに「企業立地の促進」「UJI ターンの促進」を記載していることから、現状の記載とします。

揺るぎない安心安全プロジェクト	4	「防災・避難拠点整理」の検討を希望する。	個別の取組みについて「防災対策の充実」「新庁舎の建設」に記載していることから、現状の記載とします。
まちじゅう賑わいプロジェクト	5	「発信・広報の充実」の検討を希望する。	「戦略的なシティープロモーション活動に取り組む」と記載していることから、現状の記載とします。
中山間地域振興プロジェクト	6	『6. 中山間地域振興プロジェクト』が、7つのプロジェクトの中で突出して詳しい記述となっているのは、総合計画として歪な感じがします。分野別計画のところで記述すればよいのではないのでしょうか。	現計画にて、最重点プロジェクトの1つに掲げていますが、本計画においても、中山間地域の置かれている状況や課題を踏まえ、本市の今後の中山間地域づくりの指針として位置付けることから、現状の記載とします。
	7	当項目のみ他項目と異なり詳細が記載されており、資料として違和感を覚えます。	現計画にて、最重点プロジェクトの1つに掲げていますが、本計画においても、中山間地域の置かれている状況や課題を踏まえ、本市の今後の中山間地域づくりの指針として位置付けることから、現状の記載とします。
	8	「エネルギー源としての林業の視点」「スポーツの場としての視点」の検討を希望する。	安心して誇りをもって暮らせる持続可能な新しい「地域のかたち」を目指した体制づくりを柱に構成しているため、提案の件は個別計画で対応することから、現状の記載とします。

分野別計画全般	9	総合計画案を読んでの意見を提出させていただきます。将来に向けて大きな流れをつかむのは、非常に難しいことと思います。現時点で分かる範囲の事柄が記載されており、基本的には問題ないと思います。ただ、気になる点としては前期基本計画（素案）において、数値目標があるものと、ないものがあることです。目標管理のためにも、数値目標がもっとあっても良いと思います。	「推進施策の展開」における、目標指標の内容や数値を見直し、追記・修正しました。
---------	---	---	---

1-1 教育の充実	10	推進施策「不登校対策の充実」に、「登校しないという選択の視点」の検討を希望する。	不登校の未然防止の取組みを充実させることが、最大の責務と考えていることから、現状の記載とします。
	11	推進施策「学校再編整備の推進」に、「学校の地域拠点化（子供だけでなく高齢者も集まる拠点として、再編による極端な校数減をなくす）の視点」「学校の防災・避難拠点の視点」の検討を希望する。	廃校・休校の学校施設の活用と学校の再編整備とは、内容が異なるものであり、ここに記載することはなじまないと考えます。 なお、地域拠点施設も廃校施設についての活用策の一つですが、これは地域の考えによるもので、学校に限定されるものではないと考えます。 また、避難場所として、多人数の受入れが可能であることから学校設備を指定しているが、防災等の拠点施設として位置付けは、市の防災体制の中で検討する課題であることから、現状の記載とします。
2-1 生涯学習の推進	12	ここで公民館・施設の整備に言及するのは妥当でない気がします。 あくまでソフト面を検討願います。	地域の生涯学習活動を推進し、地域力向上を進める上で、老朽化の著しい社会教育施設の設備・改修は重要だと考えています。 また、生涯学習のソフト面の推進については、現在検討を進めている「第3期生涯学習推進プラン」で定め、計画的に進める考えであることから、現状の記載とします。
	13	推進力向上と周南市のプレゼンス向上のために、国及び世界的な推進枠組みに参画すると複合的な効果が生まれるのではないのでしょうか。 例えば、日本ユネスコ国内委員会が推進する「持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）」など。	さまざまな機会を捉えて、国および世界的な課題にも取り組んでいきたいと考えています。 持続可能な社会づくりの担い手を育むESD教育については、本市の教育全体の中で捉え、まずはその理念に対する理解や周知を図りたいと考えています。

2-2 文化・芸術活動の振興	14	「歴史検定」の実績・今後についてふれられていない。 (一部「2-1：生涯学習の推進」に記述があるが、 こちらに分類すべきでは)	「歴史博士検定」は、本市の特色ある歴史や本市を物 語る人物などを後世に伝える取り組みの一つといえま すが、市民の自主的な学習活動の支援として捉え「2-1 生涯学習の推進」に分類をしていることから、現状の 記載とします。
	15	「文化財等の活用」に期待する。 リストなりマップなりを充実させる。	現在「周南市文化財マップ」にて指定文化財などを紹 介していますが、引き続き市民が本市の歴史に親しむ ことができるよう努めたいと考えています。
	16	「歩き回り」等の実施等。 歩き回り用マップを見たこともあります、中途半端 な内容と感じました。 市街地の各所に「～跡」といった掲示を見かけますが、 それらの活用が不足している気がします。	現在「周南市文化財マップ」にて指定文化財などを紹 介していますが、引き続き市民が本市の歴史に親しむ ことができるよう努めたいと考えています。
2-3 スポーツの振興	17	「中山間地域のスポーツの場としての視点」「各種イベ ント・催しでのスポーツ団体・新スポーツの紹介（あま り実施されていない気がします）」の検討を希望する。	推進施策「スポーツを通じた地域活性化」における「地 域間交流や地域の特色を生かした取組みの支援に努め ます」および、推進施策「スポーツ環境の充実」にお ける「身近な大会や施設の情報提供に努め、スポーツ への参画を促進します」としていることから、現状の 記載とします。
2-4 人権尊重社会の実現	18	当件は、企業・県・国の状況・施策による所が大きい と思われます。企業への通知・指導・状況調査、県・ 国への働きかけを期待します。	企業等への取組みは、適宜行っていることから、現状 の記載とします。
3-1 地域コミュニティの 活性化	19	「地域づくり」中心の記述と感じますが、「地域間交 流」も重要と思います。	推進施策「住民主体の地域づくりの促進」で、「地域や 団体の相互交流や、若者の地域づくり活動への参画を促 進します」としていることから、現状の記載とします。

	20	人材育成、地域での場作り等アナログな施策も重要と感じますが、コミュニケーションが多様化する中で、デジタル（IT）の活用検討が必要なのでは。インターネット環境の普及率も高まっているとの記載もありました。デジタルな場でのコミュニケーション環境を提供し、アナログの環境に導く施策は効果が期待できると感じます。（例：モノの貸借り、生涯学習等のマッチングをデジタルで行い、実行はアナログ（公民館、学校の空きスペース等の既存のアセットを有効活用する）で行うなど）	市では、市民活動グループバンクやボランティア人材バンク等を設置し、ICTを活用した団体情報や施設情報等の提供を行い、市民同士の相互支援を促進するとともに、今後も、地域づくりの中間支援組織である「周南市ふるさと振興財団」と連携し、FacebookやTwitterなどのコミュニケーションツールを活用しながら、地域づくりへの支援を行います。 分野別計画では「3-3 市民活動の促進」の推進施策に「市民活動の活動資源である資金や人材・活動場所等に関する情報を収集し、インターネット等の広報媒体を通して情報提供に努めます」「活動資源に関する情報の集約に努め、市民活動団体が抱えるさまざまな課題の解決に向けて、きめ細やかな相談対応を図ります」としていることから、現状の記載とします。
3-2 中山間地域の 「地域づくり」の促進	21	どのような形であれ、一時的にでも、「人が中山間地域を訪れる活動の視点」の検討を希望する。	中山間地域の振興を図る上で、多くの人に訪れていただくなど都市住民と交流は大変重要と考え、「7-10 観光コンベンション等による交流の推進」の推進施策に位置付けていることから、現状の記載とします。
3-3 市民活動の促進	22	各種イベント・催しでの市民活動紹介。 （市民活動集まったの催しは存じておりますが、一般的広報が少ない気がします。）	市民活動団体を紹介する催しを充実するとともに、紙・電子媒体を積極的に活用し、市民活動の普及啓発に努めます。 推進施策「市民活動の普及啓発」で「市民活動の意義やさまざまな市民活動団体の活動内容等を情報発信し、多くの市民や企業等の市民活動への関心を高めるため、市民活動の普及啓発に努めます」としていることから、現状の記載とします。

<p>4-1 災害に強い まちづくりの促進</p>	<p>23</p>	<p>「県・他市町村との協力の視点」「各地区拠点整備の視点」の検討を希望する。 (ここで「新庁舎の建設」だけを扱うのは不適切な気がします。)</p>	<p>本計画では、実施事業を主体に示しているため「県・他市町村との協力の視点」については「周南市地域防災計画」にて明示しています。 防災上の避難所や輸送等の施設の指定は「周南市地域防災計画」に明示していますが「各地区拠点整備の視点」については、各施設の担当部署にて明示するものであることから、現状の記載とします。</p>
<p>6-1 生活道路の整備の促進</p>	<p>24</p>	<p>「道路周辺環境整備の視点（街路樹、花壇等）」「現状、行き止まり（整備途中?）となっている道路の対応」「自転車も走りやすい道路の視点」の検討を希望する。</p>	<p>「道路周辺環境整備の視点（街路樹、花壇等）」では、現存する街路樹等を、安心・安全な移動に支障のない範囲で維持することとしております。 「現状、行き止まり（整備途中?）となっている道路の対応」の個別の整備は、実施計画で対応し、「自転車道」の整備については、危険個所の改良等にて「市内全域の市民生活に密着した生活道路の安心・安全・快適な道路環境整備に努めます」としていることから、現状の記載とします。</p>
<p>6-2 交通環境の充実</p>	<p>25</p>	<p>「ぐるりんバス」廃止について記述が無い。</p>	<p>街なかふれあいバス「ぐるぐる」は、老朽化による新規車両の購入ができないこと、利用者の減少で費用対効果が望めないこと、関係団体の合意が得られていることなどから、平成24年3月末に廃止し、同様の取組みの見込みがないことから、記載していません。</p>

	26	交通の最大拠点である徳山駅（ビル）については他項目でふれられているだろうが、現時点（駅ビル一階閉鎖、JR 改札2F）の状況は交通拠点・市街地中心施設としてあまりに使いつらい（具体的記述は長くなるので略）。改善（のための意見公募なりアンケートなり）を希望すると共に新駅ビルに期待する。	今後も、市民の意見を伺いながら、整備を進めます。
	27	「催しと公共交通機関の関係の視点(中山間部の催しの紹介：広報に公共交通機関の具体的情報（時刻等）があることが少ない）」の検討を希望する。	今後の公共交通機関等の利用促進に向けた取組みにおいて、実施する予定であることから、現状の記載とします。
6-3 緑の空間の創造	28	「各種対応の催し化（清掃整備や樹木版設置等を、市の業務のみとしてではなく、周辺住民（団体・組織）との行事／年中行事として行う、他の催しと合せて行う等）」の検討を希望する。	推進施策「緑化の推進」の実施にて、地域の美化活動や催し物などさまざまな機会を利用・連携して進める予定であることから、現状の記載とします。
	29	「街路樹他の資源化（名板整備・マップ作り・歩き回り実施、秋に市街地で見られる落ちた実の活用（何かできぬものか）等）」の検討を希望する。	推進施策「緑化の推進」の実施にて、提案のあった利活用について検討を行うことから、現状の記載とします。
6-5 水道の安定供給と下水道の充実	30	「巨大・長期整備必要施設と言う視点（生活必須施設ですが、設置ありきで進めると後々数十年のスパンで問題が発生しかねません。下水も水洗ありきで良いのかとさえ思います。）」の検討を希望する。	公共水域の水質保全の観点から、市街地以外の下水道未整備地域については、下水道から浄化槽で整備する区域への見直しを行うなど、地域の実情に応じた効果・効率的な整備手法で水洗化を進めることとしています。 一方、老朽化の進む下水道施設については、耐震化機能向上も含めた長寿命化計画を策定し、中長期的な改築更新を計画的に進めることから、現状の記載とします。

		<p>「雨水利用の視点」「処理水（中水）利用の視点」「下水処理時の排熱、発生ガス汚泥活用の視点」の検討を希望する。</p>	<p>下水を処理する過程から発生する熱やガス汚泥は、限られた資源の有効活用や循環型社会の形成を推進する上で大切なことです。</p> <p>これらを下水道事業として展開するには、利用形態や公営企業としての費用対効果を検討する必要があることから、現状の記載とします。</p>
<p>7-4 地域ブランドの推進</p>	<p>31</p>	<p>「ソレーネ周南の6次元産業化の拠点施設化の先の視点（1ヶ所で市全体をカバー出来るか。かと言って箱物をあちこちに作る訳にもいかない）」「販売拠点の他、情報拠点の視点（人が多く集まる所に新たに小さくても売り場を設ける等）」の検討を希望する。</p>	<p>現在、市内には24カ所の直売所・朝市があり、販売や情報拠点としての一役を担っていますが、6次産業化を進めるには、生産・加工・販売の一連の流れを循環させる仕組みづくりが求められています。</p> <p>こうした中、道の駅ソレーネ周南には、農産物の直売所をはじめ、地元の食材などを使った製造・加工施設や地産地消のレストランなどを整備していることから、生産・加工・販売の一連の流れを踏まえると、6次産業化の理想的なモデルが「道の駅ソレーネ周南」を拠点として構築できると考えています。</p> <p>これらの取組みは、地域振興や活性化につながることから、まずは、道の駅ソレーネ周南を中心に市内の直売所・朝市も含め関係機関が一丸となって、もやい・知恵を出し合い、鋭意取り組みたいと考えていることから、現状の記載とします。</p>

	32	<p>道の駅「ソレーネ周南」をブランド発信の拠点にする考え方には共感できます。ソレーネ周南の情報発信の具体策の落とし込みが必要と思います。下記は仮説例ですが、</p> <p>例1：ターゲットとなる地域への出前プロモーション。(この場合、エリアや年齢層等のターゲットを明確にするためにデータを収集する仕掛けは必要になると思います。)</p> <p>例2：“道の駅”の出張所を“駅”に置く。(リニューアルされた徳山駅に出張所を置くことで認知度アップが期待できると共に、徳山の生產品のファンを増やす機会を獲得に繋がる)</p> <p>例3：アンテナショップ(*例1同様にターゲット明確化は必要。都会とは限らない)</p> <p>道の駅も多様化する中で明確な差別化戦略が求められると思います。</p>	<p>道の駅ソレーネ周南は「オール周南で、24時間周南ブランド」の発信をコンセプトに、全国に誇れる道の駅として、周南ブランドを市内から市外へ、そして全国に発信していくこととしています。</p> <p>まずは「地域振興の拠点」を念頭に、市内産の農林水産物の生産拡大や周南ブランドの開拓に努め、公益性と収益性を確保しながら、市民や利用者に末永く愛され、親しまれる道の駅を目指したいと考えています。</p> <p>ご提案のとおり、道の駅ソレーネ周南もこれからは明確な差別化戦略が必要となります。</p> <p>時代とともに歩み、時代とともに進化する「道の駅」の今後のあり方については、関係部局で十分に検討していく中で、この方策を考えることから、現状の記載とします。</p>
7-5 中心市街地の賑わいの創出	33	<p>「みなみ銀座対策(駅を降りて最初の通りがあれば…)」の検討を希望する。</p>	<p>南北自由通路の開通により、商店街側の歩行者の通行量が増えました。</p> <p>また、観光案内所をみなみ銀座に移転して、観光案内・特産品振興・休憩所の機能を備えた「まちのポート」を開設したことにより、今後の活性化につながると考えることから、現状の記載とします。</p>
7-6 商業の振興	34	<p>「市外からの客の確保対策」「市内共通商品券の市内中小店拡大の視点」の検討を希望する。</p>	<p>市外からの買物客の確保に向けて「新たな商業集積への調整を図る」ことを明記しています。</p> <p>また、市内共通商品券事業は、商工会議所・商工会が実施していますが、年々加盟店が拡大しており、今後も当該事業の支援を明記していることから、現状の記載とします。</p>

7-9 産業基盤の整備	35	『7-9 産業基盤の整備』における、これまでの取り組み・成果として、徳山下松港の港湾計画改訂が行われたことが記述されていますが、具体的に徳山地区では岸壁（-18m）、新南陽地区では岸壁（-14m）が位置付けられたことを記述しておくべきかと思えます。	指摘のとおり、平成26年3月に改訂された港湾計画では、15年後の目標として「徳山地区の水深18m公共岸壁」「新南陽地区の水深14m公共岸壁」の整備が位置付けられています。 このため、当該整備目標を推進施策の展開の欄に明記するとともに、この実現のために、今後5年間で取り組むべき項目を追記しました。
	36	「推進施策の展開」の「港湾基盤強化の促進」においては、“バルク貨物船舶の更なる大型化に対応した物流拠点港としては、改訂された港湾計画に基づく大型岸壁（上記意見④）とその泊地・航路や荷役機械などの港湾基盤の整備を、官民連携して推進すべきではないかと思えます。	官民連携で取り組むべき荷役機械などの港湾整備については、既に完了しています。 改訂された港湾計画は、15年後の整備目標であり、この実現のためには、再度、官民連携により、荷役機械などの港湾整備が必要になるものと考えています。 今後5年間では、次の意見（37）の回答のとおり、公共事業を進める旨を推進施策「港湾基盤強化の促進」に追記しました。
	37	「港湾基盤強化の促進」における代表的な目標指標は、“航路整備”ではなく、“バルク対応の岸壁整備”の方が妥当ではないかと思えます。その場合、現状値は、徳山地区1バース、新南陽地区1バース、目標値時点（平成31年度）では徳山地区2バース、新南陽地区2バースの整備中を目指すべきと思えます。	「徳山地区の水深14m公共岸壁」「新南陽地区の水深12m公共岸壁」は、既に整備を完了していますが、これに対応する航路が一部未整備であることから、この整備を今後5年間で終えることを推進施策「港湾基盤強化の促進」に追記しました。
	38	用語説明の「(8) ケープサイズ」の表において、15万DWTは“ミニケープ”、また、パナマックス（6万DWT）は、“ハンディマックス（5万DWT）”の間違いではないでしょうか。	「ケープサイズ：20万DWT程度」「スモールケープサイズ：15万DWT程度」「ポストパナマックス：9万DWT程度」「パナマックス：6万DWT程度」と修正しました。

7-10 観光・コンベンション等 による交流の推進	39	「自転車活用の視点（レンタサイクル、自転車乗降可列車（バス）、道路整備）」「駅ーバス・駅ー観光地の連携の視点（駅を降りて“ここには何があるか”“目的地までどうやって行けるか”どれだけすぐわかるか）」の検討を希望する。	来訪者に対する交通面等の利便性向上については、第二次交通の利用促進につながる、おすすめ観光ルートマップ製作やサイン看板整備など、情報提供の強化を図ることから、現状の記載とします。
	40	「ゆる旅」とやらはどうなったのか。	「ゆる旅」は、市の知名度向上を図るための事業として位置付け、一定の成果を得ることができました。今後も引き続き、「ゆる旅」を活用した広域的な観光事業などを展開し、誘客増加を図っていきます。
8-1 新エネルギーの活用と 低炭素社会の実現	41	水素エネルギーは新規設備必要など「工業産業」「企業産業」の面が強いのでは。 エネルギー地産を言うのであれば、再生エネルギー・新エネルギー拡大を検討して頂きたい。（下水処理発生エネルギー源、地熱（冷暖房）なり工場排熱利用なりを）	「水素の利活用」については、当項目のほか、産業振興の観点から「7-7 工業・新産業の振興」で、水素関連ビジネスの創出等について明記し、大量の水素を生産（副生）する地域特性があることから、低炭素社会の実現に向け、将来を見据えた有効な手段として着目しています。また、エネルギー地産には、太陽光発電・風力・小水力などの再生可能エネルギーも含まれることから、導入促進等について追記しました。
	42	循環型社会実現のための重要な施策であり、市としてのインパクトのある事業だと感じました。広めるために何らかのインセンティブ（補助など）制度の設計が必要だと思いますし、また、民間連携が必須の事業ですので、民間を活用したプロモーションの検討もお願いしたいと思います。	現在、国・県・市・民間事業者等による「周南市水素利活用協議会」を組織し、本市の水素利活用の推進方策等について協議しています。 また、平成25年度より当協議会の構成企業と連携して「水素自動車展」等のプロモーション活動を実施していますが、今後も積極的な普及啓発に努めるとともに、燃料電池自動車等の普及促進を図るための支援制度の創設についても検討することから、推進施策「水素エネルギーの利活用の推進」に追記しました。

<p>8-2 循環型社会の実現</p>	43	フェニックス老朽化・運用停止（＝再資源化率↓）についての記述が無い。	<p>フェニックスの稼働停止について「ごみ燃料化施設の稼働を停止」と記載していましたが、「ごみ燃料化施設「フェニックス」（RDF化施設）の稼働を停止」と修正しました。</p> <p>併せて、現行のリサイクル率とRDF化を除くリサイクル率を併記しました。</p>
	44	リサイクルプラザは遠い。人が集まる所にも啓発活動の拠点を置くべき。	<p>リサイクルプラザ「ペガサス」は、ごみの処理施設と啓発施設が一体となった施設です。</p> <p>啓発施設である「環境館」は、ごみ処理の現場を実際に見学いただき、ごみの減量化やリサイクルに対する理解を深めてもらうことを主目的として運営しています。</p> <p>今後も、エコフェスタなどのイベント開催や施設見学者の積極的な受入れを通して来館者数の増加を図るとともに、市広報・ケーブルテレビ・出前トークなどの機会を通して積極的に啓発事業を実施します。</p>
	45	「使えるが不要になったものの活用の視点(下関では時々山口新聞に「ゆずる品物」が載ったと記憶しています)」	<p>年2回開催している「エコフェスタ in 環境館」で、粗大ごみとして収集した中古家具などを、来場された皆さんに無料で差し上げる抽選会を行っています。</p> <p>現在策定している、平成27年度からの「周南市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の取組みで、市民同士が不用品の提供や利用希望等の需給情報を交換できる「不用品情報交換ネットワーク」を構築する事としています。</p>

<p>8-3 環境保全の推進</p>	<p>46</p>	<p>催し・イベントでの広報・対策に乏しい。(ゴミが大量に出る祭りで分別の徹底を示すのが最大の広報では)</p>	<p>催し・イベントは普及啓発の場として有効であることから、市では、平成17年より環境負荷低減活動を推進する環境づくりを目的とした「イベントを環境配慮するためのガイドライン」を作成しています。</p> <p>また、県においても、平成14年に「環境配慮型イベント(エコイベント)開催指針」を作成しており、ホームページなどで周知を図っています。</p> <p>本市のガイドラインは、ホームページに掲載していますが、現在、内容や周知方法についての見直しを行っています。</p>
<p>その他(計画全般)</p>	<p>47</p>	<p>素案のみで100頁以上、各所に記述のある「関連する主な個別計画」にあたっていたら膨大な量となるだろう資料について、1ヶ月で意見を、と言うのは、勤め人には困難です。</p> <p>期間の延長なり、継続的な意見募集を希望します。</p>	<p>パブリックコメントの期間は、今後の実施において検討します。</p> <p>また、市政に対するご意見・ご提言は、「まちづくり提言制度」にて随時受け付けています。</p>
	<p>48</p>	<p>各所のアンケート結果、母数不明ですが、「満足」<「不満」の案件はもちろんですが、「どれでもない」が多い案件こそ広報・施策に問題があると感じます。</p>	<p>「どれでもない」が多い案件については、原因を分析し、今後実施するアンケート調査において、内容や対象者などを検討します。</p>
	<p>49</p>	<p>専門的案件については、特に資料だけで意見を述べるのは難しく、個別に資料提示しての意見募集なり、有識者会議などでの対応を期待します。</p>	<p>まちづくり総合計画の策定にあたり、市民の幅広い視点から計画案を審議するため、教育・文化・体育・福祉・高齢者・健康・青年・産業関係団体などで構成する「周南市まちづくり総合計画審議会」を設置し、素案に対する審議を実施しました。</p>

	50	各所で「広報」「PR」の記述がありましたが、「何を」「誰／どこに（地域、年齢層、職種 他）」「どこで、いつ、どのように」（5W1H…1つぬけています多分）の見極めをお願いいたします。	対象を示していない標記については、原則市民全体を指すことから、現状の記載とします。
	51	一番多くの人（市内市外）をかかえているのは「企業」（とその関係組織、OB会等）市民への広報・教育、市民の参加活性化、市民のノウハウの活用等々、人に関係する事全て、企業に協力を求める（あるいは指導する）事が必要／重要と思われます。	まちづくり総合計画の策定にあたり、教育・文化・市民生活・福祉・保健・医療・安心安全・環境共生・都市基盤・産業・観光などの分野における各種団体や企業へのヒアリングを実施し、幅広い視点から意見や提言をいただき、素案策定の基礎資料としました。
	52	人口減少が見込まれる中、定住人口、交流人口の増加を狙うためには、周南市のファンを増やすこと＝周南市のプレゼンス（認知）を強化することであると考えます。市民の声は一定程度拾え、施策に落としこめていると思いますが、将来市民や観光者のニーズが拾っていないのが現状ではないでしょうか。 千葉県流山市に代表される自治体マーケティングへ取組み、周辺ニーズを吸上げ、ターゲット（年代、エリア、性別等）を絞った施策選定とプロモーションが必要であると思えます。	「7-10 観光・コンベンション等による交流の推進」に、知名度アップの取組みを示していますが、ご提案の先進事例も参考にしながら施策の展開を図ります。
	53	既成概念を壊す活動やコンセプト立案が認知度アップのためには必要ではないでしょうか。（例：“おいしい広島県”というキャッチなコンセプト、民間連携図書館にプラスαの要素*周南市は3例目なため）。一番煎じかつインパクトある施策があつてこそ、効果的PRにつながると感じます。	個々の事業立案において、市民のニーズを踏まえ効果的な施策およびPRにつながる取組みを研究します。